

飛躍の子

2026年7月3日(金) 第7号

金沢素囃子鑑賞、伝統芸能にふれる貴重な経験に！

6月29日(月)金沢素囃子鑑賞会に参加しました。金沢の伝統文化に触れる貴重な体験になりましたね。来週10日(金)には、「先端技術体験」として三谷産業に出かけます。これは金沢市内の中学2年生が先端技術にふれる貴重な学習の機会です。どんな態度・心構えで参加すればよいか、今一度、ひとりひとりが考えてのぞみましょう。



みんなの感想から

いつも聞いている曲と全然違う曲で、こういう曲もあるんだなと思いました。声を出す人も、声がめっちゃ高かったり低かったり、どれだけ練習したのかなと思いました。全部の楽器がそろっていてミスがないと思ったし、ずっと座っていて足がしびれないのかなと思いました。

見ただけで分からなかった楽器のつくりとか、息で皮を湿らせるとか知って、そんな楽器があることも知らなかったのが、びっくりしました。

いろんなことを考えながら聞いたのでよかったです。

(2組 太田 諒)

まず最初に「しゃみせん」についてのお話があり、漢字で書くと、3つの味の線と書いて「三味線」と読むことが分かりました。次に三味線は線を太くするほど音が低くなり、逆に線を細くするほど音が高くなることも学びました。

その次に「鼓」についてのお話です。「鼓」は打楽器の種類で、金沢駅の「鼓門」はこの「鼓」を意識して造られたそうです。

僕はこの行事でたくさん色々なことを学びました。この機会をいかしていきたいと思います。

(1組 宮野 吏司)

素囃子鑑賞事業はとても楽しく、金沢の日本独自の文化が見られてとてもよかったです。三味線などの日本独自の楽器を聴くことができたり、指揮者の代わりに三味線の人などが中心となって和楽器のオーケストラのようになり、奏でているところがよかったです。

このような体験で金沢の文化を感じられ、とても楽しく華やかで、とてもよかったです。これによって金沢の他の文化(能など)にもふれてみたいと思いました。

(3組 南 諒太郎)

三味線をひいていた4人の、手を振るタイミングが完璧ですごくいいと思いました。太鼓も大きさやたたき方で音が変わるということを知ることができました。私にはあんなに大きくて響く声を出すことができないので、尊敬したいです。

素囃子では、指揮の代わりに誰かが声を出して音を出し始める合図をすることや、一人一人ひける楽器が何個もあるということも知ることができました。唄う係の人が4人もいることにびっくりしました。また見に行ってみてみたいと思いました。

(4組 成田 莉々生)

私は初めて素囃子を見たのですが、声かけがかっこよかったし、とてもそろっていてすごいなと思いました。鼓は大きい方が音が高いのが不思議でした。小鼓をたたいてみたいです。私でもできそうなくらい簡単そうに演奏していて、すごいなって思いました。

三味線の声かけが一番かっこよくて好きです。三味線を弾いてみたいです。

(1組 大家 瑚々奈)





初めて素囃子を聞き、あまりできない経験ができてうれしいです。やっぱり日本ならではの音楽は、普段家で聞く音楽とは全く違って、独特な歌声と三味線などの楽器が合っていてキレイでした。そして一番びっくりしたのは、指揮者がいないということです。指揮者がいないのにどうやってこんなにキレイに音を合わせられるんだろうと思っていたら、三味線を弾いている方が声を出して合図をしていました。それで息を合わせられるのもすごいと思いました。

(2組 尾関 双葉)

素囃子を見に行き、知らないことも多かったけど、新しくいろいろなことを知れてよかったです。

元禄花見踊では、お花見のわくわくしていながらも花の美しさを感じることができて、少ない楽器で表現していたから、どうしたら情景とかを音だけで表すことができるのかなと思いました。

連獅子では最後の方の盛り上がりがすごくて、聴く人が飽きないようにする工夫が伝わってきました。親子の愛を短い曲で表現できるのが、トップレベルの技なんだと感じました。

操三番叟では、おめでたい曲だったので、音は全体に高めて、にぎわっているような感覚になりました。(3組 浜谷 琶子)

上段に歌を歌う人と三味線、下段に素囃子が並んでいて、素囃子は太鼓だけだと思っていたけど、笛とか小鼓、大鼓と色々な種類があることを知ることができてよかったです。三味線にはそれぞれ異なる音があり、上の三本の棒で音を変えることができると学べたり、3つの曲を聞いてみて1つ1つ音の感じが違って、同じ楽器でもこんなに違う音を出せていたり、最初の曲は桜っぽい音ですごかったです。

(4組 太田 望結)

素囃子が和楽器のオーケストラで、全国的にもトップレベルにある伝統芸能だと分かりました。和楽器といったらゆっくりで優しい感じの演奏だと思っていたけど、実際に聞いてみて、思ったより明るくて楽しげな演奏だったので驚きました。長唄もあって力強い感じで楽しかったです。

締め太鼓と大鼓が心に残りました。締め太鼓は、強くたたくときは、右手は左手、左手は右手の肩のところにおいてからたたいていて、演奏以外のところも美しいと思いました。大鼓は手でたたいていると思っていたけど、ツメをつけてたたいてるので高い音が出ると分かりました。(1組 若林 優菜)

私は素囃子を鑑賞して、音や動作が合わさっていることに感銘を受けました。音は指揮者がいなくてもリズムを合わせたり指示をする楽器があるので、ずれていることがなくて驚きました。そして声を出しているところは、会場全体にストレートに力強く響いていて、詳しく声の出し方を知りたいと思いました。動作は、楽器を鳴らすときに同じ楽器の人たちは、手を上げる高さ・角度・スピードの全てが合っていました。素囃子は伝統的な和のオーケストラのような存在なので、これを未来までずっと残していきたいです。私にとって『日本の宝』です。

(2組 魚谷 美月)

素囃子を鑑賞して、日本の演奏らしくてとてもすごいと思いました。本当に和楽器のオーケストラみたいな感じで、演奏に一体感がありました。THE 和って感じが一番最初に伝わってきました。踊りなどはなかったけど、歌と演奏だけでも十分満足できました。

楽器の説明などを聞いたときに、その事を本番で見ていたけど説明を聞いた後に見ると、楽器の音1つ1つに気をつけてやっているのが伝わってきました。中学生からの質問などもしっかり聞いて、それをすぐ答えることができるのもプロって感じがしました。

練習は慣れてもやり続けるということが大切だと言っていて、「確かに」と思いました。やり続けることで一体感などを出せるんだなと感じました。タメになることがたくさんあって、とても良い1日になったと思います。

(3組 中口 友誠)

色々な楽器を使って曲をひいていたことが心に残った。理由は、色々な楽器の音をあわせて曲をひいていたからです。全ての楽器に、どんな機能があるのか、どのように音を出しているのか、音を変えているのかを知りたいと思いました。楽器をひく人の人数が思ったより少なかったこと、音が激しくないと思ったけど激しかったことが意外でした。

(4組 酒井 理輝)